

国連食料システムサミット 2年後フォローアップ会合：国連事務総長による報告書 ＜Making food systems work for people and planet＞（概要）

国連食料システムサミット (UNFSS) 2年後フォローアップ会合に向けた準備段階で、101 か国、国連システム、コアリション及びステークホルダー等から提出のあった、食料システム変革に向けた進捗状況の報告について分析・取りまとめ。

食料システム変革に向けた各国の2年間の進捗

- 67%の国が、国家戦略やセクター別計画に、食料システム変革に向けた道筋 (National Pathway) の策定のビジョンを統合。60%が、食料システム変革に向けた道筋の実施を開始。
- 4分の1の国が、食料システムの問題を国内の法令に反映（食料に対する権利、食品ロス・廃棄、学校給食、食料の公共調達、労働法等の適用がより重要）。
- 70%が、食料システムの運営の整備・強化に向けた取組を実施。
- 47%が、国及び準国レベル（州、区、市町村等）での食料システム対話を継続。
- 半数の国では、資金ギャップを評価する取組が進行中。
- 半数の国は、食料システムを気候変動に早急に適用させ、環境面の強靱性を推進する必要性を認識。

コアリションによる支援

- 131 か国・地域がコアリションに参画。
- 世界レベルでは、コアリションは、食料システム変革の重要性を強調するため、政策に関与する重要な役割を遂行。
- 地域レベルでは、コアリションは、各国の食料システム変革に向けた道筋を実施する上で、知識、経験、専門知識及び教訓の共有促進に焦点。
- 国レベルでは、コアリションは、食料システム変革に向けた道筋の実施のための技術的支援を優先。100 か国において、コアリションは、特定の政策判断に資する情報提供として、技術的分析、モデル化、その他の方法を提供。食料システム戦略、投資計画、資金調達可能なビジネス事例を設計し、実施のための資源を動員し、国家レベルの対話と能力構築を促進。

国連システムによる支援

- 国連食料システム・コーディネーション・ハブは、UNFSS の成果として、同サミットの後フォローアップ継続のために設立。設立以来、毎月のグローバル食料システム・ソリューション対話、四半期ごとの地域タッチポイント及び地域の対面会議を開催。また、各国の技術的・財政的支援ニーズの詳細な理解を促進し、国別の多面的支援を促進。
- 国連機関では、食料システムを優先事項として位置付け、中核的な業務分野に統合するための措置を実施。新部門の設立や新戦略の採用に加え、重要な国際会議等で

食料システムを優先するために各機関が団結。

- 国連機関や各基金等による食料システム変革のための財政支援の推進・強化。

SDG サミットと 2025 年までの優先事項

(次の 2 年後に向けた優先事項)

- 政策は、政府が国家の将来を形成する手段。国家政策は、食料システムを活用し、短期的及び長期的に全ての人々と地球の幸福に貢献することに、多大な注意を払う必要。
- 変革の強靭さは、それを推進する主体や機関の知識、理解及び能力に比例。能力構築と専門知識（科学、イノベーション、ノウハウ、研究及び探究）へのアクセスの拡大は、変革の明確な促進力として、より適切に展開される必要。
- 変革を可能にするためには、資金の動員、配分及び保護が不可欠。触媒的な働きをする資金へのアクセスを確保し、公的、民間及び譲許的資金の現在の流れを分析し、それらが財政的制約と ODA の縮小に直面して、食料システム変革を効果的に支援しているかどうか、またどのように支援しているかを定期的に評価。
- 地域協力とコミュニティは、国の活動を分散させ、知識の共有を加速させ、特に貿易を巡る国境を越えた問題に対処できる可能性。
- ジェンダー平等と女性のエンパワーメントの達成は、食料安全保障、より良い栄養及び持続可能な食料システムに貢献。

(支援に向けたロードマップ)

- 食料システム変革のため、在ローマ食料関係国連機関とその他国連システムの連携促進、国連食料システム・コーディネーション・ハブによる加盟国への支援促進、国際金融機関や多国間・国家の開発銀行による触媒的な働きをする資金支援、多様なステークホルダー等による優良事例の共有等が有効。
- 2023 年 5 月の G7 広島サミットでは、食料連盟 (Food Coalition)、食料・農業強靭化ミッション (FARM)、食料安全保障のためのグローバル・アライアンス (GAFS)、民間セクター・小規模生産者連携強化 (ELPS) イニシアティブの立上げに加え、「強靭なグローバル食料安全保障に関する広島行動声明」が発表され、UNFSS 2 年後フォローアップ会合など食料システムを主流化。

(UNFSS 4 年後フォローアップ会合等の今後に向けて)

- 2023 年 9 月の SDG サミット (ニューヨーク)、同年 11 月の気候変動 COP28 (ドバイ)、2025 年の UNFSS 4 年後フォローアップ会合等に向け、持続可能な食料システム変革を推進するとともに、進捗の評価が重要。

(了)